

令和２年度第１回岡崎市社会福祉審議会障がい者福祉専門分科会会議録

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和３年１月～２月で書面会議とした。

意見をいただいた委員

愛知県厚生事業団	伊藤 毅	委員
岡崎市障がい者福祉団体連合会	加賀 時男	委員
岡崎市手をつなぐ育成会	山田 美佐子	委員
民生委員児童委員協議会	林 智栄	委員
岡崎市ボランティア連絡協議会	蜂須賀 博英	委員
西三河福祉相談センター	古田 学	委員
岡崎歯科医師会	田中 浩之	委員

(事務局)

障がい福祉課 課長	鈴木 ますみ
障がい福祉課 副課長	原林 基昭
障がい福祉課 係長	畔柳 直典
障がい福祉課 主任主査	田中 麻里恵

議題 第５次岡崎市障がい者基本計画（第６期障がい福祉計画・第２期障がい児福祉計画）（案）について

【各委員の主な意見】

- 障がい者の就労、特に精神の方は就労が大変。
- 障がい者を支える事業者における課題等について、市などが理想の計画を立てたとしても、それを遂行するのは事業者である。事業者の課題をつぶす事が重要。
報酬の部分で、高い志を持っていても、生活していけない賃金であると離職する。
事務量の部分で、障がい者自立支援協議会専門部会でも耳にしたが、事務量の多さで大変になり、本人達に十分に接しられないとのこと。
- 現在福祉会館内にあるボランティア連絡協議会が美合町に移転する事になると場所も遠くなり、交通の便も悪くなり、不便を感じる。
障がい者の方々の利用も多く、今までボランティアを続けてこられた方々の退会が懸念される。
- 地域の避難訓練への障がい者の参加を促し、関係機関が連携し、緊急時の情報伝達や避難誘導、福祉避難所の設置など救助体制の充実を図るとあるが、実際避難訓練に参加できる方は少なく、参加できない方への働きかけはどのようにするのか。町内単位では難しい事もあり、訓練ではどの担当部署が救助体制をとってくれるのか具体的に知りたい。

- こんにちは赤ちゃん訪問の実施について、民生委員の立場から実際に赤ちゃん訪問により障がいや発達に心配のある子の早期発見につながった事例もあった。コロナ禍で情報を把握する事ができない為、先生が訪問された時に気付かれた事等の情報をこの時期だけでも共有してほしい。
- 地域の防災訓練などにも必ず障がい者参加するように主催者側に義務づけ、障がいについての啓発展示、体験や支援体験ができるような内容にすれば、災害発生時にも支援できると思う。
- 防災訓練の時期なども障がい者が参加しやすい時期（秋など）に開催することも必要と思う。
- 現在・将来の暮らしについて、1人世帯の人に対する障がい福祉課として、又他の課と連携等をして何か策等を持っているか。
- 市の障がい者施策への満足度について、市の施策への不満が前回より低下とはいえ、33.2%ある。どんな事のどういう部分が不満なのか、又市としてどのように改善等を考えているか。
- 障がい者団体のニーズ等について、このニーズは極めて重要。対策等は考えているか。

【事務局回答】

- 社会福祉協議会の移転に伴いボランティアセンターも移転しますが、連携に努めます。また、友愛の家ではボランティア連絡協議会と連携しボランティアの養成講座を開催するほか、ボランティアの受入れを行い、育成及び支援に取り組んでいます。
- こんにちは赤ちゃん訪問時に訪問員が知りえた情報については個人情報のため共有できませんが、お渡ししている訪問リストをもとに、民生委員さま各自で世帯との関わりについて御対応いただけたらと存じます。
- 防災に関しては、施策分野(6)安全・安心な地域づくりにより、関係各課が連携して対応します。
- 一人暮らしへの支援については、施策分野(7)生活の質の維持・向上により、グループホームの整備等居住の場への支援の充実や、障がい福祉サービスの充実を図ります。また、地域生活支援拠点等の充実を図ります。
- 障がい児・者の不満や困っていることは、アンケート結果や障がい者団体のヒアリングにより把握しています。アンケート結果等を基に本計画を策定しておりますので、計画を具体的に実行することで改善を図ります。
- その他いただいたご意見は、今後の障がい福祉施策の参考にさせていただきます。